

鳥取県園芸試験場河原試験地 70 年間の沿革と主な試験研究の成果

河原試験地は昭和 28 年に八頭郡町村会の誘致により「農業試験場津ノ井分場柿試験地」として発足しました。



津ノ井分場柿試験地（昭和 28 年）



ほ場を拡張（昭和 42 年）



河原試験地の庁舎改築（昭和 53 年）



水田ほ場を設置（平成 34 年）

植付け当時より、生産者の手本となるほ場を目指して管理を続けてきました。産地へ普及した主な研究成果などは以下のとおりです。



昭和 30～40 年代の目標樹形



現在の樹形（令和 5 年 3 月）



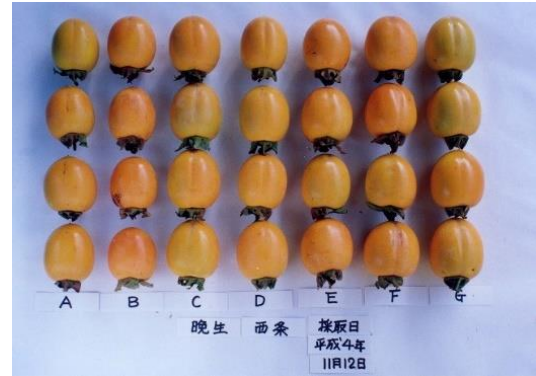
カキ害虫の発生予察（最初の予察灯）



西条の簡易脱渋方法の確立



早生西条の系統選抜（昭和61年）



中晩生西条の系統選抜（平成10年）



平棚栽培による早期成園化（平成15年）



輝太郎の育成（平成22年品種登録）